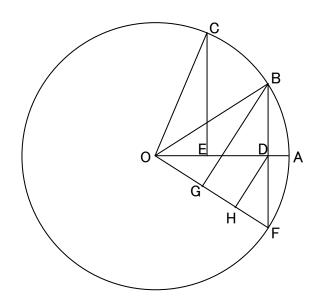
# ※証明のための準備

# 「命題1]

点 Oを中心とし、半径が 1 の円周上に 3 点 A 、 B 、 C があるとする。点 B 、 C から直線 OA に下ろした垂線の足をそれぞれ D 、 E とする。 D 、 E が線分 OA 上にあり、  $OE = 2OD^2 - 1$  が成り立つとき、

$$\angle AOC = 2 \angle AOB$$

が成り立つ。



### (証明)

直線OAに関して点Bと対称な点をFとする。直線OFに点B、Dから下ろした垂線の足をG、Hとする。点Bが円Oの周上にあることと点Fの取り方より、

$$OB = OF = 1 \quad \cdots (a.1.1)$$

$$BD = FD \cdots (a.1.2)$$

$$\angle AOB = \angle AOF \quad \cdots (a.1.3)$$

点G、点Hの取り方より、

$$\angle BGO = 90^{\circ}$$
 ···(a.1.4)

$$\angle DHO = 90^{\circ}$$
 ···(a.1.5)

(a.1.4)(a.1.5)より

(a.1.2)(a.1.6)より

$$GH = HF \cdots (a.1.7)$$

点Dの取り方より

$$\angle BDO = 90^{\circ}$$
 ···(a.1.8)

(a.1.5)(a.1.8)より

$$\angle DHO = \angle BDO \quad \cdots (a.1.9)$$

(a.1.3)より

$$\angle DOB = \angle HOD \quad \cdots (a.1.10)$$

(a.1.9)(a.1.10)より

(証明終わり)

(a.1.29)より

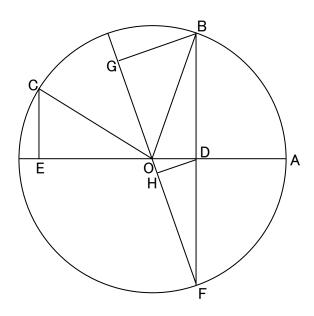
 $\angle AOC = 2\angle AOB$ 

# 「命題2]

点Oを中心とし、半径が1の円周上に3点A、B、Cがあるとする。点B、Cから直線OAに下ろした垂線の足をそれぞれD、Eとする。Dが線分OA上にあり、Eが線分OAのOの側の延長上にあって、 $OE=1-2OD^2$ が成り立つとき、

$$\angle AOC = 2 \angle AOB$$

が成り立つ。



### (証明)

直線 OA に関して点 B と対称な点を F とする。直線 OF に点 B 、 D から下ろした垂線の足をそれぞれ G 、 H とする。点 B が円 O の周上にあることと点 F の取り方より、

$$OB = OF = 1 \quad \cdots (a.2.1)$$

$$BD = FD \quad \cdots (a.2.2)$$

$$\angle AOB = \angle AOF \quad \cdots (a.2.3)$$

点G、点Hの取り方より、

$$\angle BGO = 90^{\circ}$$
 ···(a.2.4)

$$\angle DHO = 90^{\circ}$$
 ···(a.2.5)

(a.2.4)(a.2.5)より

$$BG//DH$$
 ···(a.2.6)

(a.2.2)(a.2.6)より

$$GH = HF \cdots (a.2.7)$$

点Dの取り方より

$$\angle BDO = 90^{\circ}$$
 ···(a.2.8)

(a.2.5)(a.2.8)より

$$\angle DHO = \angle BDO \quad \cdots (a.2.9)$$

(a.2.3)より

$$\angle DOB = \angle HOD \quad \cdots (a.2.10)$$

(a.2.9)(a.2.10)より

(a.2.27)(a.2.30)より

(証明終わり)

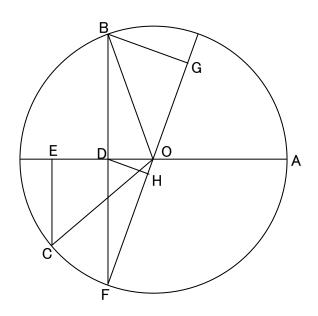
# 「命題3]

点 Oを中心とし、半径が 1 の円周上に 3 点 A 、 B 、 C があるとする。点 B 、 C から直線 OA に下ろした垂線の足をそれぞれ D 、 E とする。 D 、 E が線分 OA の O の側の延長上にあって、  $OE = 1 - 2OD^2$  が成り立つとき、

優角  $AOC = 2\angle AOB$  すなわち  $\angle EOC + 180^{\circ} = 2\angle AOB$  が成り立つ。

### (注意)

同一直線上にない2つの半直線から作られる角は2つあって、大きい方を優角、小さい方を劣角という。 ∠ABCのように書いた場合、とくに断りがないかぎり劣角を表す。



#### (証明)

直線OAに関して点Bと対称な点をFとする。直線OFに点B、Dから下ろした垂線の足をそれぞれG、Hとする。点Bが円Oの周上にあることと点Fの取り方より、

$$OB = OF = 1 \quad \cdots (a.3.1)$$

$$BD = FD \cdots (a.3.2)$$

$$\angle DOB = \angle DOF \quad \cdots (a.3.3)$$

点G、点Hの取り方より、

$$\angle BGO = 90^{\circ} \quad \cdots (a.3.4)$$

$$\angle DHO = 90^{\circ}$$
 ···(a.3.5)

(a.3.4)(a.3.5)より

(a.3.2)(a.3.6)より

$$GH = HF \quad \cdots (a.3.7)$$

点Dの取り方より

$$\angle BDO = 90^{\circ}$$
 ···(a.3.8)

(a.3.5)(a.3.8)より

 $\angle BOF = 2\angle DOB$  …(a.3.28) F、O、G はこの順に同一直線上にあるから、

 $\angle$ GOB =  $\angle$ EOC ···(a.3.27)

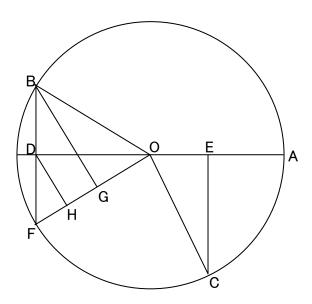
(a.3.3)より

(証明終わり)

# 「命題4]

点Oを中心とし、半径が1の円周上に3点A、B、Cがあるとする。点B、Cから直線OAに下ろした垂線の足をそれぞれD、Eとする。Dが線分OAのOの側の延長上にありEが線分OA上にあって、 $OE = 2OD^2$  -1が成り立つとき、

優角  $AOC = 2\angle AOB$  すなわち  $\angle DOC + 180^{\circ} = 2\angle AOB$  が成り立つ。



### (証明)

直線 OA に関して点 B と対称な点を F とする。直線 OF に点 B 、 D から下ろした垂線の足をそれぞれ G 、 H とする。点 B が円 O の周上にあることと点 F の取り方より、

$$OB = OF = 1 \quad \cdots (a.4.1)$$

$$BD = FD \quad \cdots (a.4.2)$$

$$\angle DOB = \angle DOF \quad \cdots (a.4.3)$$

点G、点Hの取り方より、

$$\angle BGO = 90^{\circ} \quad \cdots (a.4.4)$$

$$\angle DHO = 90^{\circ}$$
 ···(a.4.5)

(a.4.4)(a.4.5)より

$$BG//DH$$
 ···(a.4.6)

(a.4.2)(a.4.6)より

$$GH = HF \cdots (a.4.7)$$

点Dの取り方より

$$\angle BDO = 90^{\circ}$$
 ···(a.4.8)

(a.4.5)(a.4.8)より

$$\angle DHO = \angle BDO \cdots (a.4.9)$$

(a.4.3)より

$$\angle DOB = \angle HOD \quad \cdots (a.4.10)$$

(a.4.9)(a.4.10)より

A、O、Dはこの順に同一直線上にあるから、  $\angle EOC = 180^{\circ} - \angle DOC$  …(a.4.30)  $\angle DOB = 180^{\circ} - \angle AOB$  …(a.4.31)

(a.4.29)(a.4.30)(a.4.31)より
$$180^{\circ} - \angle DOC = 2(180^{\circ} - \angle AOB) \quad \cdots (a.4.32)$$
(a.4.32)より
$$\angle DOC + 180^{\circ} = 2\angle AOB$$
(証明終わり)